

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期     | 2学年 | 1単位 | 必修     |
| 担当教員   |     |     |        |
| ◎徐淑子   |     |     |        |
| 添付ファイル |     |     |        |

|  |                         |                |  |
|--|-------------------------|----------------|--|
| 授業種類   | 【開講】<br>前期              | 【授業時間】<br>15時間 |  |
|  | 【担当教員】<br>【氏名】<br>◎徐 淑子 | 【研究室】<br>316   |  |
| 【本学の科目区分】<br>専門基礎科目  |                         |                |  |
| 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】<br>看護師課程・保健師課程  |                         |                |  |
| 【D P 1】 <input type="radio"/> 【D P 2】 <input checked="" type="radio"/> 【D P 3】 <input type="radio"/> 【D P 4】 <input type="radio"/> 【D P 5】 <input type="radio"/> 【D P 6】 <input type="radio"/> 【D P 7】 <input type="radio"/> |                         |                |  |

|         |  |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
|---------|--|--|--|---|--|---|--|-----|---|---|--|---|--|-----|---|
| 到達目標    | ①「健康と病気」をめぐる諸行動の多様性を理解する。 ②行動モデルを用いて身近な健康現象を理解・説明することができる。 ③保健行動についての知識が看護業務にどのように活用できるのか、自己の考えを説明できる。 ④看護師・保健師国家試験の問題を読み、保健行動のモデルで解釈できる記述を指摘することができる。   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 授業概要    | この授業では、身近な例を取り上げながら、ある保健行動が起こる背景にはどのような心理的なしくみがあるのか、また、どのような社会的条件がそろうと保健行動が起こりやすいのかについて、代表的な説明モデルを踏まえて考えていきます。また、保健行動がおこる仕組みや背景要因についての知識を、どのようなかたちで健康教育や患者教育に応用することができるのか、その可能性についてもとりあげます。  |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 授業計画    | <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>「保健医療の行動科学」とは<br/>学習内容：<br/>行動科学の意義を「生活者の視点」「慢性疾患中心の疾病構造」の観点から、学ぶ。<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保健行動の多様性<br/>学習内容：<br/>健康一病気のサイクル、保健行動、健康新行動、疾病行動、セルフケア<br/>保健行動のさまざまなかたと、その特色について学ぶ。<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>保健行動の生起<br/>学習内容：<br/>教育（KAP/KAB）モデル、ヘルス・リテラシー、恐怖アピール、保健信念、保健行動シーソー、計画的行動理論、ナッジ<br/>保健行動の生起にかかる心理・社会的要因について、さまざまなモデルから理解する。健康教育・患者教育との関わりについて学ぶ。<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>保健行動の習慣化<br/>学習内容：<br/>段階的変化理論、自己効力感<br/>保健行動の継続に関わる要因について、個別ワークを通して学ぶ。<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行動科学的な知見の応用（1）<br/>学習内容：<br/>医療場面のコミュニケーションにかかる諸問題<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>行動科学的な知見の応用（2）<br/>学習内容：<br/>認知行動療法を援用した生活習慣改善プログラムを体験学習する。<br/>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br/>備考：視聴覚資料、個別ワーク</td> </tr> </table> |  |  | 1 | 「保健医療の行動科学」とは<br>学習内容：<br>行動科学の意義を「生活者の視点」「慢性疾患中心の疾病構造」の観点から、学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク | 2 | 保健行動の多様性<br>学習内容：<br>健康一病気のサイクル、保健行動、健康新行動、疾病行動、セルフケア<br>保健行動のさまざまなかたと、その特色について学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク | 3-4 | 保健行動の生起<br>学習内容：<br>教育（KAP/KAB）モデル、ヘルス・リテラシー、恐怖アピール、保健信念、保健行動シーソー、計画的行動理論、ナッジ<br>保健行動の生起にかかる心理・社会的要因について、さまざまなモデルから理解する。健康教育・患者教育との関わりについて学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク | 5 | 保健行動の習慣化<br>学習内容：<br>段階的変化理論、自己効力感<br>保健行動の継続に関わる要因について、個別ワークを通して学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク | 6 | 行動科学的な知見の応用（1）<br>学習内容：<br>医療場面のコミュニケーションにかかる諸問題<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク | 7-8 | 行動科学的な知見の応用（2）<br>学習内容：<br>認知行動療法を援用した生活習慣改善プログラムを体験学習する。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク |
| 1       | 「保健医療の行動科学」とは<br>学習内容：<br>行動科学の意義を「生活者の視点」「慢性疾患中心の疾病構造」の観点から、学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 2       | 保健行動の多様性<br>学習内容：<br>健康一病気のサイクル、保健行動、健康新行動、疾病行動、セルフケア<br>保健行動のさまざまなかたと、その特色について学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 3-4     | 保健行動の生起<br>学習内容：<br>教育（KAP/KAB）モデル、ヘルス・リテラシー、恐怖アピール、保健信念、保健行動シーソー、計画的行動理論、ナッジ<br>保健行動の生起にかかる心理・社会的要因について、さまざまなモデルから理解する。健康教育・患者教育との関わりについて学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク  |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 5       | 保健行動の習慣化<br>学習内容：<br>段階的変化理論、自己効力感<br>保健行動の継続に関わる要因について、個別ワークを通して学ぶ。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 6       | 行動科学的な知見の応用（1）<br>学習内容：<br>医療場面のコミュニケーションにかかる諸問題<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 7-8     | 行動科学的な知見の応用（2）<br>学習内容：<br>認知行動療法を援用した生活習慣改善プログラムを体験学習する。<br>授業形態：講義と授業内課題、対面あるいは遠隔<br>備考：視聴覚資料、個別ワーク  |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |
| 事前・事後学習 | ①事前学習：「どこカレ」授業ページのアンケートを確認する。受講前アンケートに回答する。アップ   |  |  |   |  |   |  |     |   |   |  |   |  |     |   |

|                 |  |
|-----------------|--|
|                 | <p>してある資料を閲覧する。わからないことばをリストアップする・図書館やインターネットで調べる。<br/>         ②事後学習：「どこカレ」にアップしてある動画や資料を再閲覧する。返却された課題を再度確認する。国試の過去問資料に目を通し、不明な箇所を自己学習する。</p>  |
| 評価方法、評価基準       | 評価方法：到達目標①～④に対し、授業内課題（30%）と期末レポート（70%）にて評価します。<br>評価基準：課題およびレポート出題時に示します。  |
| 必携図書            | 指定の教科書はありません。必要な資料は、授業時間ごとに配布します。  |
| 参考図書・資料等        | Glanz K et al. (2006[2002])：健康行動と健康教育-理論、研究、実践、曾根智史他訳、医学書院 (Glanz K et al. Health Behavior and Health Education 3rd Edition, Jossey-Bass, SF.).<br>宗像恒次（1996）：最新行動科学からみた健康と病気、メヂカルフレンド社。 |
| 受講、課題、資料配布等のルール | 毎回の授業でみなさんに課題に取り組んでいただきます。課題は、出席票を兼ねますので、忘れずに提出してください。受講にあたって必要な情報や資料は、「どこカレ」のコースページにて提供しますので、受講前後に欠かさず閲覧なさい。  |
| 教員からのメッセージ      | 保健行動にかんする初步的な理論を学びながら、今までにもっている知識とこれから学ぶ看護科学の専門知識の両方を入れる、しっかりした器（うつわ）をつくりましょう。   |
| オフィスアワー         |  |